

「播磨国風土記」の世界  
風土記の酒

中秋の名月を眺めながら盃を傾ける、9月9日の重陽の節句に長寿を願って菊酒を祝う、9月はお酒と縁の深い月です。「播磨国風土記」は、他の風土記に比べ、お酒に関する話が多く載っていることをご存じでしょうか。なかでも、宍粟郡比治里の話は、日本酒の歴史を語る時、必ずといっていいほど登場します。

酒を庭酒として宴を開いたそうす。そのため、庭酒村と呼ばれるようになったのだとか。この記事は、「カビの酒」、つまり、米麴による酒造の初見史料とされています。

庭酒の村がどこであったか定説はありませんが、その候補地の一つとされるのが一宮町能倉に鎮座する式内社・庭田神社です。同社は伊和大神の御子神と伝えられ、室町時代の地誌「峯相記」にも伊和大明神の眷属の社として名前が挙がっています。



▲庭田神社

印象的なのが、境内をめぐる清らかな水の流れ。「宮居の泉」からわき出す水の流れは冬でも温かく、「ぬくぬ川」と呼ばれています。地元では、ある時、ぬくぬ川の畔で休んだ伊和大神がこの泉に干飯を漬けたまま忘れてしまい、気がついた時には発酵して酒になっていたと伝えられています。



▲宮居の泉

一宮町伊和を中心とする石作里にあった「伊和の村」も、元は「神酒」の村でした。伊和大神がお酒をこの村で醸したことからそう呼ばれたと、風土記に記されています。今でも祭りにお酒が神聖な飲み物であった風土記の時代に思いを馳せつつ、日本酒を味わってみてはいかがでしょう。

(播磨学研究所研究員 植岡真弓)

おいでよ 図書館へ



宍粟市立図書館 ☎ 62-4620

えほんのじかん  
おはなしのじかん

毎週土曜日  
10:30~11:00

4歳以上の子どもたちを対象に、絵本を読んだり、昔話を語ります。申込不要。開始時間までにご来館ください。



今月の  
オススメ

脱！スマホのトラブル

著者／佐野佳弘

被害者や加害者にならないために、知っておきたいスマホの危険性！メールやSNSなどでの危ない行為、やって良いこと悪いことがわかります。



日本の産業遺産図鑑

著者／二村 悟

鉄道・工場・製糸場・水道など、日本の近代化に貢献してきた、全国各地の歴史的な産業遺産を美しい写真とわかりやすい解説で紹介しています。

図書館カレンダー

□ 休館日 □ 館内整理日(休館)

【開館時間】午前10時~午後5時30分

	日	月	火	水	木	金	土
							12 13
9月	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
				1	2	3	4
10月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

編集後記

「軍師官兵衛」欠かさず見えています。これまでドラマはほとんど見なかった(安)ですが、開始から9か月、あっという間に過ぎた感じです。小寺政職、織田信長、黒田職隆、荒木村重など、物語を支えた人物が次々と表舞台から消えていき、波乱に満ちた戦国の世を生き抜いた黒田官兵衛がいよいよ「看板どおり」の主役になったなあ〜と、感じています。演じる岡田准一さんは、昨年秋の姫路ロケ取材したときに「この役をいただいてから、一生懸命歴史書を読んで勉強した」と話されていました。宍粟が舞台となり、その名が全国に知れ渡った第32話も過ぎ、ドラマはいよいよクライマックスへ!最後まで見逃せません。(安)